

# 提案の概要

この資料は市の提案書の抜粋であり、この内容の全てが実施されるものではありません。

当町では、「杉戸町人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略(H28.2)」において、観光戦略として「杉戸宿の歴史を活かしたにぎわい創出」を図ることとしています。

本提案では、杉戸宿の街道と水運の歴史を活用し、古利根川に親水広場や棧橋を整備し、観光ルートとして位置付けて、周遊ルートを活用して、観光客のまちなかへの回遊性を高め、地域振興のきっかけづくり致します。

また、川の駅と遊覧船の活用を促進するため、駅近の川辺に親水広場を整備する等、観光客の玄関口として充実させ、町民も観光客も楽しめる『癒やしの水辺空間』を目指します。

## 取組のイメージ図



## 計画等の位置付け

### ■第5次杉戸町総合振興計画後期基本計画

基本施策4「活力を育み、賑わいのあるまち」として、観光の振興の主要施策として、杉戸宿を活用した賑わいづくりの促進と観光・交流資源の充実・活用を掲げている。

### ■杉戸町人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略

10のリーディングプロジェクトの1つとして「新しいひとの流れをつくる～見どころいっぱい人いっぱい～」を位置付けており、杉戸宿を活用した賑わいづくりの促進を図るとともに、また、観光・交流資源の充実・活用として、古利根川流灯まつりなどの観光振興事業を進めるとしている。

## 目標・成果指標

### ■杉戸宿の歴史と連携した川の活用

・杉戸宿の街道と水運の歴史を活用し、古利根川に親水広場や棧橋を整備し、観光ルートとして位置付けて、観光客のまちなかへの回遊性を高め、地域振興を創出します。

### ■癒やしの水辺空間の創出

・駅近の川辺に親水広場を整備する等、観光客の玄関口として充実させ、町民も観光客も楽しめる水辺空間を創出する。

成果指標	現在	整備後
川を活用したイベント(古利根川流灯まつり等)の来場者数	3万2千人/年	3万8千人/年
まち歩き参加者数	640人/年	800人/年



## 位置図



## 川の状況

- 町内の大落古利根川は延長9km  
(うち改修済み延長約0.7km)
- 活動団体 6団体  
(うち川の国応援団の登録 4団体)
- 川の特徴
  - ・ 東武動物公園駅から約100m。中心市街地に位置する。
  - ・ 古川橋清地橋間では流灯まつり、駅前通りでは夏祭りが開催される町の中心的な観光スポット。
- 過去の事業
  - H17 親水護岸2基、照明灯8基
  - H26 親水護岸2基、照明灯6基、ポケットパーク1か所
  - H27 宮代町側が終了  
これにより、古川橋清地橋間の周遊ルート、松伏町までの遊歩道が整備された

## まちの状況

- 地域資源
  - ・ 本町は日光街道5番目の宿場町として栄えた歴史や文化を有しており、歴史的な建造物もまちなかに点在している。
  - ・ 杉戸町観光案内人による『まちあるき』を実施しており、日光街道杉戸宿の町並みが残る建物や、地域の寺社仏閣などをめぐるツアーが人気である。
  - ・ 夏には古利根川にたたみ一畳の大きさの大型灯籠を約250基を浮かべる『古利根川流灯まつり』を開催しており、同川沿いに観光案内所や流灯工房を設置し、観光の拠点として活用している。
- 課題
  - ・ 平成28年は開宿400年を迎える杉戸宿の関連イベントが数多く実施されるが、来年以降、どのように杉戸宿への関心を継続していくか課題となっている。
  - ・ 中心市街地の商店が廃業し、空き店舗が増え、人口の空洞化も進んでいる。
  - ・ 町の人口は46,009人、高齢化率22%、年少人口割合12.9%となっており、少子高齢化が進行している。



# 市町村が取り組む事業等の概要

この資料は市の提案書の抜粋であり、この内容の全てが実施されるものではありません。

## 位置図



住民協働で作成した「まちあるきマップ」



子どもまち歩き



## 事業等の概要

### ハード

- (川の駅 すぎと) 第2流灯工房の整備  
既存の町施設である第2流灯工房(倉庫)を集客施設としても使えるように改修又は改築する。
- 周遊ルートの機能の充実  
川と杉戸宿の周遊ルートを整備し集客を図る。
  - ・ 親水施設の活用や川めぐりの施設整備(船や休憩施設など)
  - ・ 案内板や道標の整備、充実
  - ・ 古民家や空き店舗の活用

### ソフト

- 周遊ルートの充実  
川と杉戸宿を周遊する「杉戸宿めぐり(杉戸宿川めぐり)」の実施
- 親水施設の活用  
(仮称) リバーサイドテラスすぎとの活用
  - ・ 休憩所やカフェ等での活用
  - ・ 川のイベントの実施
- (川の駅 すぎと) 第2流灯工房の活用  
・ 流灯まつりやマルシェイベントの実施

## 工程表・想定事業費

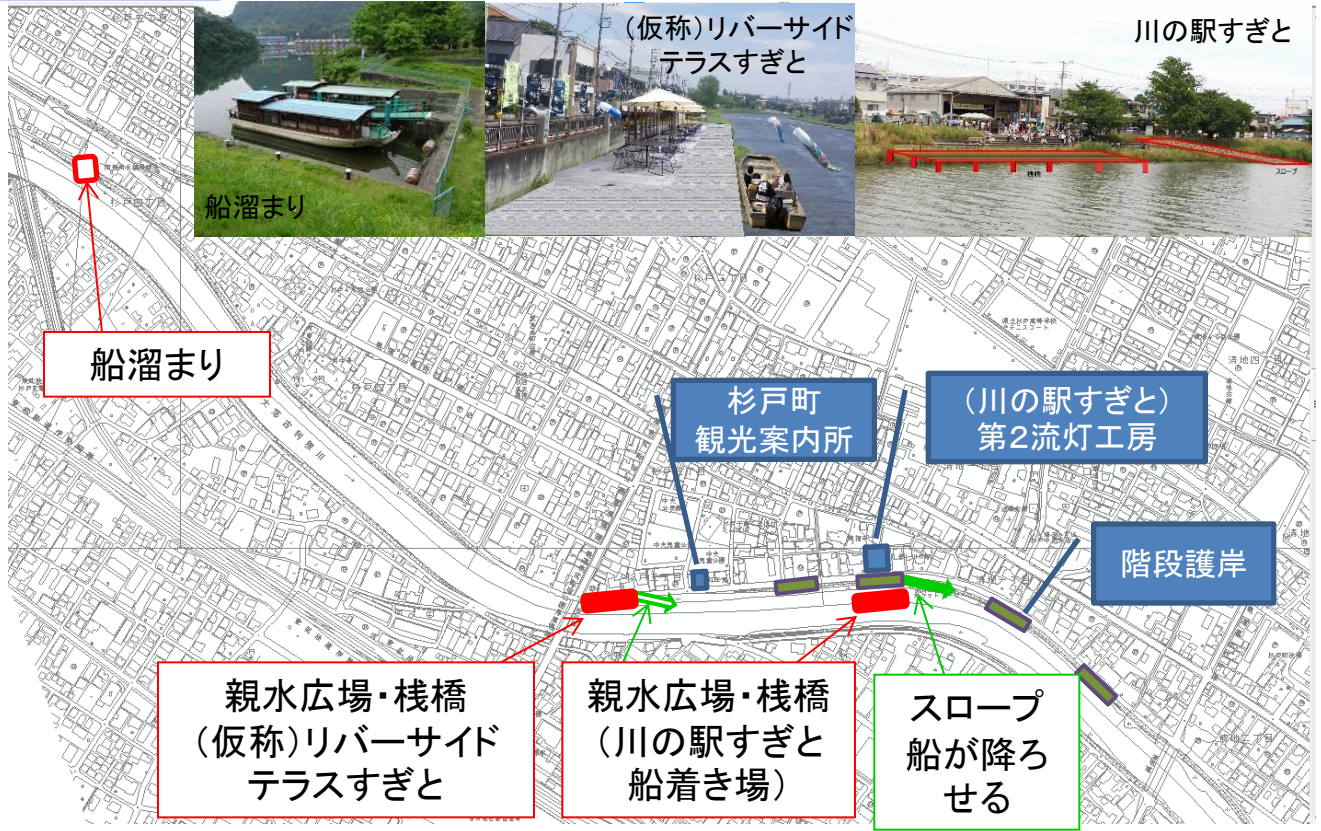
	H28	H29	H30	H31	H32	想定事業費
(川の駅すぎと) 第2流灯工房の活用			●	●		2百~40百万円
親水施設の施設の活用			●			3百万円
案内板や道標の充実整備・活用	●			●		2百万円
古民家や空き店舗の活用			●		●	3百~50百万円



# 県に実施してほしい整備の概要

この資料は市の提案書の抜粋であり、この内容の全てが実施されるものではありません。

## 位置図



## 実施してほしい整備概要

### ■親水広場の整備

- ・流灯まつりでも活用できる親水広場の整備(1か所)
- ・船を活用した各種事業を展開するため、船が着岸できる親水広場(1か所)

### ■スロープの整備

- ・親水広場へアクセスするスロープの整備(1か所)
- ・流灯工房から船を堤防上から川に降ろすためのスロープの整備(1か所)

### ■船溜まりの整備

- ・船の活用を推進するため、南側用水路揚水機場跡地前に常時、船が停泊できる船溜まりを整備(1か所)

## 工程表・想定事業費

	H28	H29	H30	H31	H32	想定事業費
計画策定		●————●				—
親水広場・栈橋整備			●————●			80百万円
スロープ整備			●————●			20百万円
船溜まり整備				●————●		50百万円